

2026 年 7 月 31 日

**【実施レポート】鈴鹿 8 耐に熱中症対策エイドステーションを設置。
太陽光発電と蓄電システムを搭載し、
100%再生可能エネルギーによる完全オフグリッド運営を実現。
モータースポーツのカーボンニュートラル化に向け 4 社が連携**

エリーパワー株式会社は、2026 年 7 月 3 日（金）～5 日（日）に開催された「2026 FIM 世界耐久選手権 “コカ・コーラ” 鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 第 47 回大会」において、レース関係者向け熱中症対策エイドステーションの運営をサポートしました。

本取り組みは、モータースポーツのカーボンニュートラル化を目指して、鈴鹿サーキット（ホンダモビリティランド株式会社）、スズキ株式会社、大和リース株式会社、エリーパワー株式会社の 4 社が連携し、昨年に続き 2 回目の実施となりました。今年度は大会期間中の大半が曇天・雨天に見舞われましたが、エイドステーションで使用した電力の 100%を再生可能エネルギーで賄い、完全オフグリッド運営を達成しました。



■人命にも環境にもやさしいエイドステーション

本エイドステーションは、レース関係者をはじめとする参加者の熱中症予防や体調不良時の一次診察・処置を目的に設置され、本年度で 2 回目の運営となりました。人命第一としながら、環境にも配慮したカーボンニュートラル設計を特徴としています。

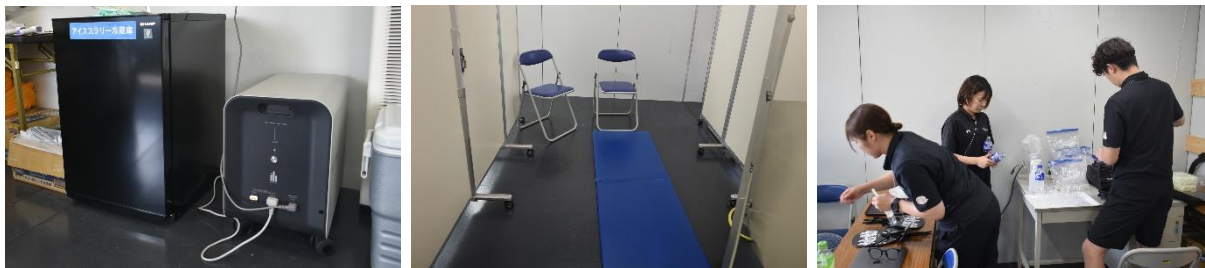
施設には、高い断熱性能を備えたユニットハウスを採用し、太陽光パネルと蓄電システムを搭載。太陽光発電による電力を蓄電池に貯めて活用することで、夜間や悪天候時を含む長時間の運営を可能としました。

また、施設内には冷房設備やアイスラリー提供用の冷蔵庫等を設置、運営はメディカルフィットネス SHL の専任スタッフが担当し、暑熱環境下での参加者の安全確保に貢献しました。

<エイドステーションの稼働時間>

稼働時間合計：36 時間

7/3(金) 7:00-20:00 7/4(土) 8:00-18:00 7/5(日) 7:00-20:00



左：アイスラリー用冷蔵庫と可搬型蓄電システム／中：休憩スペースも完備／右：メディカルフィットネス SHL 専任スタッフによる運営

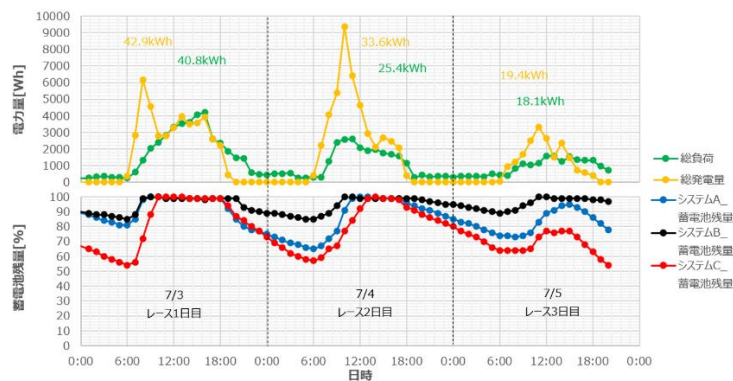
■使用電力の 100%を再生可能エネルギーで運営

今年 は 昨年 より 1 か月 早い開催に加え、大会期間中の大半が曇天・雨天となり、昨年と比較して気温も低い状況となりました。その結果、冷房による消費電力も少なく、エイドステーションの使用電力の 100% (84.3kWh) を再生可能エネルギーで賄うことができ、完全オフグリッド(電力の自給自足)での運営を達成しました。本取り組みにより、従来の発電機使用時と比較して約 100 kg の CO₂ 排出量の削減、約 45 リットルの燃料削減※に貢献しました。 ※換算には 5kVA クラス発電機の公称燃料消費量を使用



左：総発電容量 18.2kW の太陽光パネルを設置／右：出力 6kW、容量 12.8kWh の家庭用蓄電池を 3 基設置

<期間中の総発電量と総消費電力量>



総発電量：95.9kWh

総消費量：84.3kWh

自給自足率：114%

【参考：昨年度の稼働状況】

昨年度は最高気温 35 度、路面温度 60 度を超える過酷な暑さのなかでの開催となりました。晴天に恵まれたものの暑さによる消費電力量が多くなった結果、86%の電力自給自足率となりました。

<期間中の総発電量と総消費電力量>

総発電量：168.6kWh 総消費量：195.3kWh

自給自足率：86%

<エイドステーションの稼働時間>

稼働時間合計：37.5 時間

8/1(金) 7:00-20:00 8/2(土) 8:00-19:00 8/3(日) 7:00-20:30

■モータースポーツのカーボンニュートラル化に向けてー4社連携で実現

本取り組みは、鈴鹿サーキット(ホンダモビリティランド株式会社)、スズキ株式会社、大和リース株式会社、エリーパワー株式会社の4社の連携で実現しました。

鈴鹿サーキットでは、モータースポーツイベント開催に伴うCO₂排出量を2030年までにネットゼロにする目標を掲げ、継続して取り組みを行っています。鈴鹿8時間耐久レースにおいても、「チームスズキCN(カーボンニュートラル)チャレンジ」をはじめとした参加チームによるサステナブル燃料・アイテムの導入など、環境負荷低減に向けた取り組みが拡大しています。本エイドステーションも「スズキCNチャレンジ」の一環として実現しました。

【参加企業】

鈴鹿サーキット／ホンダモビリティランド株式会社(本社：三重県鈴鹿市、代表取締役社長：斎藤 毅)



モータースポーツのカーボンニュートラル化に向けて、継続的な取り組みを実施。モータースポーツイベント開催に伴うCO₂排出量を2030年までにネットゼロにする目標を掲げています。今回は、レース会場内にエイドステーションを設置。

スズキ株式会社(本社：静岡県浜松市、代表取締役社長：鈴木俊宏)



「チームスズキCN(カーボンニュートラル)チャレンジ」として、サステナブル燃料、その他サステナブルアイテムを採用したマシンで本大会に参戦し、7位完走。本エイドステーションは「スズキCNチャレンジ」の一環として行われ、全体コーディネートを担当。

大和リース株式会社(本社：大阪市中央区、社長：北 哲弥)



ユニットハウスや仮設建築の専門性を活かし、リユース可能で断熱性に優れたユニットハウス「ダイワアシスト4」の設置、エアコン含めた内部電気工事を担当。

エリーパワー株式会社(本社：東京都品川区、代表取締役会長兼CEO：吉田博一)



蓄電池の専門メーカーとして、太陽光パネルおよび住宅用蓄電システム「POWER iE Connect／パワーイエ・コネクト」の設置、外部配線、実環境での試運転、大会期間中のエネルギーマネジメントを担当。

■今後の展望について

太陽光パネルと蓄電池を搭載した仮設施設は、モータースポーツイベントに限らず、屋外イベントや防災拠点など、電源を必要とするさまざまな用途に転用可能です。クリーンな電力を時間帯に関わらず安定的に供給することが可能なほか、停電時にも電力供給可能なレジリエンス性を備えています。

今回の取り組みにより、再生可能エネルギーを活用した仮設インフラが、約4日間で施工・電気工事が完了できること、高い安全性を兼ね、環境負荷も少ない実用的なソリューションであることが実証できました。今後も、蓄電技術を通じて再生可能エネルギーの活用拡大に貢献し、持続可能なモータースポーツの実現と脱炭素社会の推進に取り組んでまいります。

■お問合せ先：エリーパワー株式会社 <https://www.eliypower.co.jp>

〒141-0032 東京都品川区大崎1-6-4 新大崎勤業ビルディング19階

事業内容：大型リチウムイオン電池および蓄電システムの開発、製造、販売

報道関係お問合せ先 電話番号 03-6431-9047(広報部)/090-5962-8564(広報部渡邊)

広報・取材についてはこちら <https://www.eliypower.co.jp/contact/coverage>